板橋区子ども・子育て会議　会議概要及び議事要旨

■会議概要

会議名	令和７年度 第２回 板橋区子ども・子育て会議
開催日時	令和７年９月１１日（木）　午前９時３０分から午前１１時３０分まで
開催場所	区立グリーンホール　１階ホール
出　席　者	２６人　委員　野澤会長　吉田副会長　高田委員　三枝委員　遠藤委員 安彦委員　小室委員　大塚委員　芦谷委員　舘岡委員 島田委員　内山委員　栂村委員　宮崎委員 子ども家庭部長 区側出席者　教育委員会事務局次長　地域教育力担当部長 健康推進課長　障がい政策課長　子ども政策課長 保育運営課長　保育サービス課長　子育て支援課長 支援課長　学務課長　地域教育力推進課長
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）
傍聴者数	３人
議　題	【審議事項】 （１）（仮称）いたばし子ども・若者・子育て応援プラン 2030 骨子案 【報告事項】 （１）令和６年度の子ども総合家庭支援センターの活動状況について
配付資料	資料１　（仮称）子ども・若者・子育て応援プラン2030骨子案 別紙１　子ども・若者・子育て世代人口の推移 別紙２　子ども・子育てに関する各種調査結果概要 参考資料1　「いたばし子ども未来応援宣言2025」の進捗状況について 参考資料2　いたばし子ども未来応援宣言2025「実施計画2025」計画事業進捗状況一覧 参考資料3　「いたばし子ども未来応援宣言2025」計画指標一覧 資料２　令和６年度の子ども家庭総合支援センターの活動状況について
所　管　課	子ども家庭部　子ども政策課　計画調整係　（電話3579-2471）

議事要旨

【審議事項】

（１）（仮称）いたばし子ども・若者・子育て応援プラン２０３０骨子案（資料１）

〇委員

「絵本のまち」に関してあまり実感がない。更に打ち出すのであれば、例えば、全部の小学校の図書室をあいキッズに次ぐ子どもの居場所にしてみる、読書時間の減少に関する対策を打ち出していくなど、絵本といったら板橋と言われるくらい頑張ってもいいと思う。

〇区

「絵本のまち」をブランドとして強く広めていきたい。取り組みについては、まだまだ色々な場所で必要だと思っているため、参考にしながら充実を図っていきたい。

〇委員

幼稚園に「絵本のまち」の実態を作るような行動をしてほしい。例えば廃棄する絵本を寄付していただく、読み聞かせで中央図書館に幼稚園の子たちが行く機会を作るなど。私たちに「絵本のまち」の実感がないので参考にしていただければありがたい。

〇区

区全体で「絵本のまち」の普及に取り組んでいるものの、どのような活動が絵本のまちにつながるのかということがまだ広く区民に浸透しているとは言い難い。ブランド戦略としていろいろな分野に広げていく努力を継続していくことが大切だと考えている。

〇委員

１点目、就学前に転出傾向にあるのは、住宅の問題が大きいと考える。マンションの価格が高騰し、経済的な事情で埼玉の方への転出が多くなっていることについて何か対策があるか。

２点目、資料１の２．現状と将来予測・課題の整理の中で、いじめ・不登校の話が出ているが政策の中に文面が見当たらない。不登校対策についてもう少し踏み込んでほしい。

３点目、現在、ジュニアリーダーを支援する活動を行っているが、地域で活躍できる 20 代を増やしていきたいので、地域活動への参加促進も入れてほしい。

〇区

１点目について、資料１（３）左下に「住宅政策の検討」とある。子育て世代が転出超過の実態があるので、住宅政策部門と連携し、どういった支援ができるか検討していく。

２点目について、資料１の６（２）に「小学生から中学生の多様な学び支援（いじめ防止など）」とある。現在、教育委員会において、多様な学びを推進する計画を策定中のため、それとの整合を図っていく。

３点目について、高校生から若者の地域活動への参加促進は重要な課題と認識している。資料１の６（３）青年期における支援策の中で検討していきたい。

〇委員

別紙２「自らの虐待可能性の意識について」で約２割が「思ったことがある」と回答していることについて、自身を責めてしまっている保護者の割合ではないかと感じた。８（２）に「子育ての学び・レスバイト・家事・子育てへの参画」とあるが、学びが多いことによって、逆に学んだことと自らを比較して苦しんでしまうこともある気がする。子育ての学びに加えて、共有や理解し合う、話を聞くだけでもいいという居場所づくりの充実が図られていくと、子育ての心労的負担軽減が図られるのではないかと感じている。現在そういった場が、仕事中の参加できない時間帯に開催されるケースが多い。オンラインや夜間の開催等で、保護者の方達が共通の悩みを知ってホッとできるような場づくりがあると、定住に向かっていく要素にもなるのでは。そういった取り組みもあればいいなと思う。

〇区

子育て支援の充実化が図られる一方で、子育てしている親は誰が助けてくれるのかという声もあ

る。親同士が気軽に集まって話す、情報共有できる場が求められていることについて、いただいた意見を参考に、区としてどういったことができるか考えていきたい。

○委員

７（３）包括的支援体制の構築と強化について、子育て世代は同時に親の介護も重なってきている。板橋区の包括的支援体制は具体的にどのような方向に進んでいくのか。

○区

包括的支援体制については、現在、福祉部を中心に、地域保健福祉に関する付属機関から意見を聴きながら検討を進めている。高齢・介護の分野で地域包括ケアが進み、障がい、子育ての分野でもそれぞれで包括的な支援が必要になってきているが、各分野を越えて連携しなければ解決できない課題があり、そのわかりやすい例がヤングケアラーの問題だと思うが、各分野の関係機関が連携することで重層的な支援につながっていくものとイメージしていただければと思う。各分野をつなぐコーディネートの役割が今後益々重要になってくると考えている。

○委員

別紙２の３、板橋区区民意識意向調査にて、「愛着を感じる」区民の割合が高く、「誇りを感じる」区民の割合が低いことについて、見解を詳しく聞かせてほしい。

○区

「住みやすい」あるいは「愛着」を感じる区民の割合は高い一方で、「誇り」に感じる区民の割合が低い傾向は以前から続いているが、20 年前に比べれば、やっと５割に近づいてきたところである。「住みやすさ」や「愛着」が高いことに加え、住んでいるまちを誇りに思う、自慢できるブランド力がもっとあれば、外から人を呼び込んだり、転出抑制につながっていったりするのではないかと考えている。これがまさに、これまで区が進めてきたブランド戦略であり、その一つとして、「絵本のまち」のブランド力を高めようと取り組んでいる。

○委員

「誇り」に関しては、板橋区の学校で板橋の歴史を学ぶ（小学校では町探検を行っている）ことで子どものころから根付いていくものだと思う。粕谷家（かすやけ）住宅の文化財や資料館を訪ねるなど、やはり学校教育が大事だと思う。「子どもの居場所」について。区の子どもが「外でボール遊びをしたい」とニュースで訴えているのを見たが、その後どうなっているのか聞きたい。

「親の介護と子育てが重なる」点について、細かいケアとしてショートステイでお子さんを預けられる環境があってもよいかと思う。最後に、「保護者が相談できる場所」について、そこには病院のソーシャルワーカーのような役割の方がいても良いかと思う。働いている保護者の方は子育ての悩みだけではなく、仕事と子育ての両立に悩んだりしているので、そういうことを全て相談できて気持ちが楽になるような場所があればいいなと思う。

○区

１点目について、学校教育はもちろん、区の様々な文化・スポーツ、産業の魅力をブランドとして創造し、発信していこうというのがブランド戦略なので、子どものころから広く根付くような取組を継続していく必要があると考えている。２点目のボール遊びの場所については、公園の所管課で検討しているところであり、その状況を把握して、可能であればこの計画にも盛り込んでいきたい。近年、酷暑で外で遊べないということが問題になっており、暑さ対策も必要である。

３点目については、子ども家庭総合支援センターのショートステイ事業や、障がい政策の短期入所事業で宿泊を伴う預かりも実施しているので、さらに周知を図っていきたい。入所定員の拡大については、対応することができる施設や職員の確保が現状難しく、今後の課題として捉えている。４点目について、子育ての相談機能の充実は図っていきたいと考えており、その人材確保についても検討課題だと認識している。

○委員

資料１の３、基本理念において「子育てが大変なときは、みんなであたたかく手を差し伸べる」

「そんな子育ちの循環が持続するまちでありたい」とあるが、この主語・主体は板橋区ということで合っているか、または板橋区に在住の区民が当てはまるのか。

○区

基本理念は、区が子ども政策を展開するにあたっての基本的な考え方のため、主語は「区」であるが、ぜひ区民の皆様に共感していただき、一緒に政策を推進していければと考えている。

○委員

「誇り」に思う割合が低い理由について、板橋区は残念ながらダサい印象が強いからだと思う。ブランドになりうる要素をつなげて全体をコーディネートする戦略的な組織のようなものがあればいいと思う。また、支援が必要な家庭の親は、手を差し伸べようとするとシャットアウトする人も多い気がする。気持ち的にハードルを下げる何かがあればいいと思う。

○区

１点目について、実は既に区はブランド戦略の組織を設置して５年以上が経過しているが、それが成果を上げていないというご指摘に当たると思う。引き続き、全庁連携し、一丸となってやっていくためにも、子ども政策の分野でも計画にきちんと位置付けていきたい。２点目について、例えば児童館でも利用するには敷居が高いと感じる人もいる。そっと見守りつつ、何気ない日常会話から、必要であれば支援につなげていくようなことを基本としている。一例ではあるが、相談しやすい環境づくりについては今後も配慮していく。

○委員

放課後にボール遊びができる場所がないということだったが、あいキッズではできる。ただし、制限がかかるようになってしまった。誇りについて、板橋区はどこへ向かうにも経由地であることは誇りに思うし、吸収しやすく発信しやすい場所という意味ではポテンシャルを秘めていると思っているが、なんとなく区民自身が自分たちの住んでいる場所をダサいと諦めている所があると思う。

○区

あいキッズはボール遊び等ができる場所としてもっと発信していきたい。暑さの関係で屋内での活動を求める声もあるので、そういったことも含めて今後の対応を考えなければと思っている。２点目について、若い世代を呼び込み、定住化につなげていく可能性を秘めているのが、現在４つの駅周辺で進めているまちづくりだと思っているので、そのポテンシャルを高め、発信してきたい。

○委員

「絵本のまち」を普及させるもっと良い方法はないのか。学校の授業での活用、読み聞かせも含めて検討をお願いしたい。

○区

色々な方法があると思うので、引き続き検討し、ブランドとして育て、発信させていきたい。

○副会長

私から５点ほど。１点目は、昨今、「多様性」の尊重は極めて重要な概念だと思っている。ぜひ、基本理念に加えていただきたい。２点目は、幼児期から小学校への円滑な接続は極めて重要であり、その点で、６（１）における「子どもの誕生前から乳幼児期」という表現では、小学校のまで切れる感じがするので工夫が必要である。３点目は、ＤＸについて、もっとスピード感のある視点を入れるべきであり、一方で、事業所へのサポートについても十分に配慮してほしい。４点目は、子育て世代に配慮した住宅支援について、子ども家庭庁が調査研究しており、その報告書が３月末にはまとまっていると思うので参考にするとよい。最後に、誰でも通園制度について、来年４月からスタートするには今の検討状況は不十分と言わざるをえない。給付事業となるため、区は需要があればそれに応えなければならない。その需要の見通しをきちんと立てて、必要な供給量をきちんと確保できているか、わかるように示してほしい。

○区

１点目について、区は多様性の重要性を認識しているが、ご指摘のとおり、今の基本理念ではそれがわかりにくいと認識した。素案に向けて工夫したい。２点目について、小学校との接続についても、つながっていることが分かるように、表現を工夫したい。３点目について、ＤＸは区でも力を入れており、子育て分野においてスピード感を持って対応していくことがわかるよう、表現を工夫する。４点目について、住宅政策について、国の動きを教えていただいたので、十分に参考にさせていただく。最後に、誰でも通園制度については、ご指摘を踏まえ、需要と供給についてさらに検討を深めていく。

【報告事項】説明・質疑応答

（１） 令和6年度の子ども家庭総合支援センターの活動状況について（資料2）

○委員

里親登録に関して、どうして増やしていかなければならないのかについて聞きたい。

○区

国は家庭養育優先原則を基本としている。やむをえず代替養育が必要になっても、可能な限り家庭に近い環境で過ごせるような環境を整えていく方針である。その代表例が里親であり、区も里親を増やし、委託率の向上をめざしている。また、児童養護施設においてもグループホーム化・小規模化を進め、家庭に近い環境づくりを考えている。現状、里親の数はまだまだ足りておらず、目標としては、すべての小学校区に里親が１家庭はいるような状態をめざして取り組んでいきたい。

以上